

かがわ情報化推進協議会設立20周年記念事業 IPAセミナーin高松 ～セキュリティとソフトウェアエンジニアリング～

セミナー
参加無料

セキュリティ対策や、信頼性の高いソフトウェアの開発に向けた情報やノウハウ・手法の提供などを通じ、誰もが安心して暮らせるIT社会の実現するためのトピックスをご紹介します！

日時

平成24年12月7日(金) 13:00～17:30
(開場12:30)

会場

e-とびあ・かがわ BBスクエア
高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー タワー棟5階

概要

(詳細は裏面)

●第一部 セキュリティ

講演1-1「標的型サイバー攻撃の実態と対策～攻撃者ツールのデモで見る脅威の身近さ～」
講演1-2「脆弱性を回避するプログラム開発に向けて」

●第二部 ソフトウェアエンジニアリング

講演2-1「定量データ活用等によるITプロジェクトの見える化」
講演2-2「アジャイル型開発適用のヒント ～IPA/SECにおける非ウォーターフォール型開発に関する調査検討結果から～」

定員

80名程度



セミナー参加申込方法(事前申し込みが必要です)

■メールにてお申し込みの場合 … webmaster@kagawa-net.org

■FAXにてお申し込みの場合 … 087-834-1542

セミナーに参加をご希望の方は、**11月30日(金)**までに**メール**もしくは**FAX**にて、

●会社名(団体名) _____ ●所属・役職 _____

●氏名(ふりがな) _____ ●連絡先(電話、メールアドレス) _____

をご記入の上、お申し込み下さい。(上記に必要事項をご記入の上、直接FAXしていただいても結構です)

主催/ かがわ情報化推進協議会
共催/ 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)、e-とびあ・かがわ
後援/ 情報処理学会四国支部、香川大学総合情報センター

お問い合わせ先
かがわ情報化推進協議会事務局
担当/ 藤原、本多 TEL/087-832-3140

プログラム

セミナー
参加無料

13:00 開会

13:10~13:20 IPAの概要

●第一部 セキュリティ

13:20~14:20 講演1-1「**標的型サイバー攻撃の実態と対策
～攻撃者ツールのデモで見る脅威の身近さ～**

講師：渡辺 貴仁（独立行政法人情報処理推進機構（IPA））

内容：特定の企業や組織を狙った、標的型と呼ばれるサイバー攻撃による被害が続出しています。官公庁や大手企業が対象と思われる標的型攻撃は、今や中小企業にまで及んでおり、いつ攻撃を受けても不思議ではない状況です。

標的型サイバー攻撃によるこれまでの事例や今後の予測、標的型と言われる攻撃はどのような仕組みで攻撃が行われ被害にあうのか、そしてどのように立ち向かって行くべきなのか。標的型攻撃のデモにより現実の脅威を披露し、標的型攻撃について理解を深め、その対策方法について解説します。

14:20~15:20 講演1-2「**脆弱性を回避するプログラム開発に向けて**

講師：谷口 隼祐（独立行政法人情報処理推進機構（IPA））

内容：アプリケーションの脆弱性を突いた攻撃が後を絶たず、脆弱性が見つかったアプリケーション開発企業はその修正に予定外のコストを強いられかねません。本講演ではウェブアプリケーションの開発を行う方やC言語で開発を行う方を対象に、ウェブアプリケーションの脆弱性を悪用された攻撃を体験・学習できるツール「AppGoat」やC言語のソースコードセキュリティ検査ツールの「iCodeChecker」をご紹介します。ソフトウェア開発における脆弱性の回避方法を解説します。

15:20~15:30 休憩

●第二部 ソフトウェアエンジニアリング

15:30~16:30 講演2-1「**定量データ活用等によるITプロジェクトの見える化**

講師：大和田 裕（独立行政法人情報処理推進機構（IPA））

内容：状況把握が難しいソフトウェア開発プロジェクトを可視化して、進捗管理や品質、生産性の向上に役立てることを目指してIPA/SECが取り組んでいる、『ITプロジェクトの見える化』手法を紹介いたします。IPA/SECでは、ITプロジェクトの「定量的アプローチ」、「定性的アプローチ」の可視化手法を体系化し「見える化」としてまとめています。特に「定量的アプローチ」に関しては、3000件以上のプロジェクトデータを収集しており、その分析結果を踏まえて活用ノウハウやツールへの反映を行っています。本講演では、これらの手法やツールの内容を中心に解説します。

16:30~17:30 講演2-2「**アジャイル型開発適用のヒント ～IPA/SECにおける
非ウォーターフォール型開発に関する調査検討結果から～**

講師：山下 博之（独立行政法人情報処理推進機構（IPA））

内容：IPA/SECが取り組んでいる、非ウォーターフォール型開発の代表であるアジャイル型開発手法について、これまでに実施した次の調査検討結果を中心に、それらの概要をご紹介します。

- ・ビジネス環境の変化への俊敏な対応、変化する要求への対応に求められるアジャイル型開発
- ・日本におけるアジャイル型開発にふさわしい契約モデル・契約書案
- ・大規模プロジェクトへのアジャイル型開発手法の適用事例

アジャイル開発にあまり馴染んでいない方々を主な対象に、ソフトウェア開発において重要とされる、開発対象と組織の特徴に応じた適切な開発形態選択のためのヒントとなることを期待しています。

17:30

閉会

講師プロフィール



渡辺 貴仁

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 技術本部
セキュリティセンター
情報セキュリティ技術ラボラトリー

株式会社ラックで、制御系・組込み系からシステム開発まで15年間ソフトウェア開発に従事。1999年、コンピュータセキュリティ技術者として活動。2005年、IPAで脆弱性対策を中心とした普及・啓発業務に従事し、現在に至る。



大和田 裕

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 技術本部
ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC)

1979年、日本タイムシェア株式会社(現TIS(株)) 入社。1982年、日本IBM株式会社入社。2002年、アットネットホーム株式会社(現、テクノロジーネットワークス(株))入社。同ソリューション開発・運用部門の事業部長、技術統括担当部長、2011年4月、IPA/SECへ出向し、現在に至る。



谷口 隼祐

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 技術本部
セキュリティセンター
情報セキュリティ技術ラボラトリー

2007年、独立行政法人情報処理推進機構情報セキュリティ技術ラボラトリーにて脆弱性分析業務、脆弱性対策普及業務に従事。脆弱性学習ツールAppGoatの企画やセミナー講師、Androidアプリの脆弱性に関するレポートの執筆などを担当し、現在に至る。



山下 博之

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 技術本部
ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC)
エンタプライズ系 プロジェクト リーダー

1981年、京都大学大学院修士課程(情報工学)修了。同年日本電信電話公社(現NTT)入社、2003年10月、(株)NTTデータに転籍、2004年～2008年、JST出向。2009年4月、(株)NTTデータアイ入社、同時にIPAに出向し、現在に至る。